

第67回価格.comリサーチ『冬のボーナス2012』調査結果

今年の年末商戦は「タブレット端末」一人勝ち!?ボーナスで購入したい商品ランキングで、13位から“2位”に急上昇!

- ・ボーナス推定支給額:「55.0万円」。前年比+5,000円も、全体ではほぼ横ばい
- ・自由に使える金額:「10万円未満」(47.2%)がトップ、過半数が「減っている」と回答
- ・ボーナスの使い道:金額・割合ともに増加は「貯金」のみ、依然固い消費者の財布の紐

結果詳細: <http://kakaku.com/research/report/067/>

株式会社カカコムが運営する購買支援サイト「価格.com(<http://kakaku.com/>)」が実施したユーザーへの意識調査「価格.comリサーチ」より、第67回「冬のボーナス2012-ボーナス、みんなの使い道は!?」の調査結果を一部抜粋の上、ご案内します。

推定支給額: 55.0万円。50代以上や子供のいる世帯で微増するも、全体では、ほぼ横ばい

2012年冬のボーナス推定平均支給額は「55.0万円」で、昨冬の54.5万円をわずかながら上回った。ただし、全体的に見ると、昨年から大きな変化は起きておらず、ほぼ横ばいレベルだ。支給金額帯別に見た場合に变化した点をあえてあげるなら、70~90万円未満が昨年より0.5ポイント増加、逆に10万円未満の層が昨年より0.5ポイント減少した点だ。これにより、昨冬調査よりも全体で5,000円程度の支給額アップにつながった。

また、50代以上の高年齢層で子供ありの世帯ではおおむね増加、30~40代の単身者あるいは夫婦のみの世帯では減少している。昨年に比べ大きく変化したわけではなく、全体とすればほぼ横ばいで、年代、性別、世帯別で見ると増加あるいは減少が入り混じっている状況であると言える。

【図1. 冬のボーナス推定平均支給額 性別・年代・家族構成別(税込金額)】

		2012冬(万円)	2011冬(万円)	増減(万円)	前年比
全体平均		55.0	54.5	0.5	0.9%
性別	男性	56.2	55.6	0.6	1.1%
	女性	41.2	42.2	-1.0	-2.4%
年代別	20代	35.2	34.8	0.3	1.0%
	30代	42.3	43.1	-0.8	-1.8%
	40代	57.5	59.0	-1.5	-2.6%
	50代	66.3	64.5	1.8	2.8%
	60歳以上	45.7	44.7	0.9	2.1%
家族構成別	単身	43.2	45.4	-2.2	-4.8%
	夫婦のみ	54.4	54.5	-0.1	-0.2%
	夫婦と子供	61.0	60.2	0.8	1.3%
	3世代同居	55.7	52.4	3.3	6.4%

業種別：大半の業種で上昇。特に「金融業」「医療業」の好調が目立つ

業種別では、大半の業種で昨冬よりも推定支給額が上がり、逆に下がったのは「公益法人・財団法人」「卸売・小売業」のみという結果。上がった業種で特に目立ったのは「金融業」の+6.5万円と、「医療業」の+4.4万円。その他の「製造業」「ソフトウェア・情報サービス業」「サービス業」「国家・地方公務員」はいずれも1万円前後のアップとなっている。

なお、企業規模別で下がったのは「300～500人未満」の-0.6万円と、「5000人以上」の-2.6万円のみ。特に大企業である「5000人以上」での下がり方が大きい。そのほかは軒並み昨年よりもアップしているが、数千円単位での上がり幅にとどまっている。

【図2. 業種別 推定平均支給額（税込金額）】

		2012 冬(万円)	2011 冬(万円)	増減(万円)	前年比
全体平均		55.0	54.5	0.5	0.9%
業種別	金融業	84.7	78.2	6.5	8.3%
	国家・地方公務員	65.6	64.2	1.4	2.2%
	製造業	59.4	58.6	0.8	1.4%
	公益法人・財団法人	57.7	58.2	-0.5	-0.9%
	ソフトウェア・情報サービス業	54.4	53.4	1.0	1.9%
	医療業	53.9	49.4	4.4	8.9%
	卸売・小売業	45.3	47.6	-2.2	-4.7%
	サービス業	41.6	40.2	1.3	3.3%

■勤務先規模別 推定平均支給額結果はこちら

<http://kakaku.com/research/report/067/p02.html#mds02>

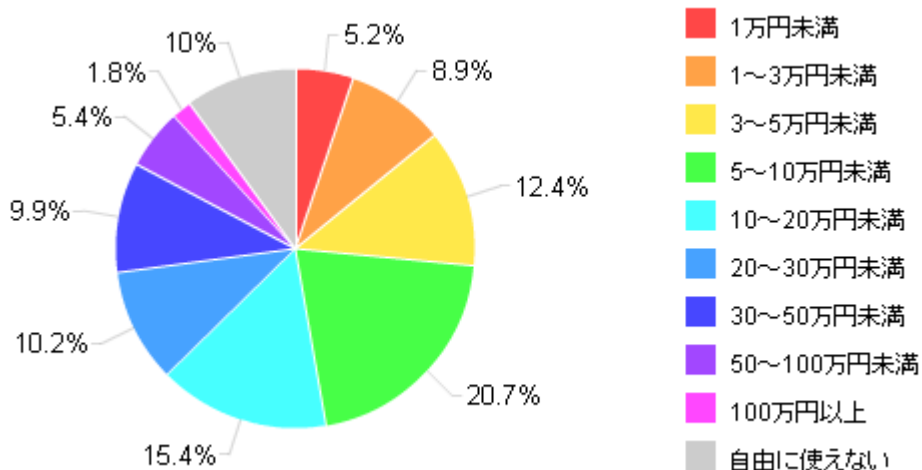
自由に使える金額：「10万円未満」が47.2%。引き続き、冬のボーナスで使える金額は増加傾向にはない

今冬のボーナスのうち、税金、ローン返済・生活費の補填、ボーナス一括払いといった、返済義務のある金額を除いた、自由に使える手取り金額の予想を回答してもらった。

「10万円未満」の割合が47.2%を占めており、冬のボーナスで自由に使える金額はさほど多くないという傾向は、今年もそのまま続いているといえる。

なお、昨冬調査でもほぼ同じような傾向は出ており、「10万円未満」の割合は48.8%だった。今年は1.6ポイントほど減少しているが、全体として自由に使える金額が増加しているかと言えばそうでもない。「自由に使えない」という割合が8.8%から10.0%へと1.2ポイント増加しているのが、ほぼこれに吸収された形ようだ。相変わらず、一般消費者が、冬のボーナスで使える金額は増加傾向にはないと言っていいだろう。

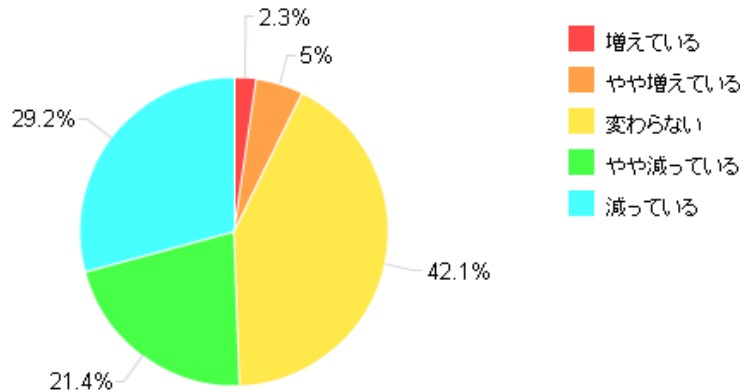
【図3. 税金、ローン返済・生活費の補填、ボーナス一括払いを除いた、実際に自由に使える金額】



「自由に使える金額」に対する実感：「減っている」「やや減っている」が過半数を占め、実感は昨年からほぼ変化なし

自由に使える金額について、増えているか減っているかを回答してもらった。結果は【図 3-1】の通りで、「変わらない」が42.1%でもっとも多かったものの、「減っている」「やや減っている」を合わせた数は過半数をやや上回る50.6%に達しており、全体としての手取りは「減っている」と感じている層が多いことがわかる。ただ、昨年の調査でもほぼ同じような結果が出ており、昨年と今年を比較すると実感はほとんど変わらないというのが実際のところだろう。世代別に見た増減傾向も昨年とほとんど同じ状況であり、「変わらない」という層が全体的に増加傾向にあることを見ても、この傾向は明らかだろう。

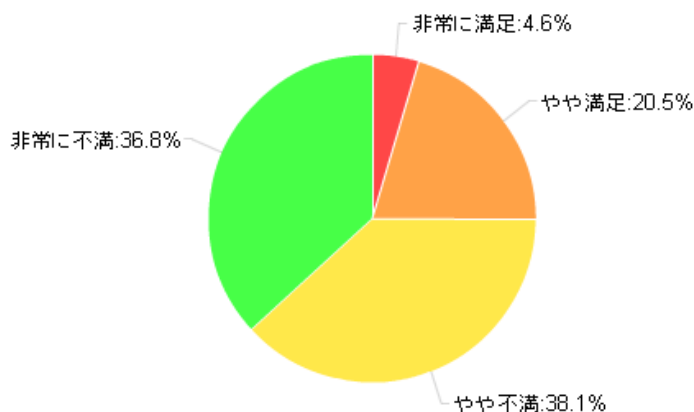
【図 4. ボーナス支給額のうち、自由に使える金額の増減】



「自由に使える金額」に対する満足度：74.9%が「不満」、昨年に比べやや改善

自由に使える金額に対する満足度を聞いたところ、約4分の3の74.9%が「不満」と感じていることがわかる。昨冬調査では「不満」は76.4%だったので、この割合が1.5ポイントほど減少し、その分が「やや満足」に移っていることが分かる。わずかではあるが、満足度が改善された結果だ。

【図 5. 自由に使える金額についての満足度】



使い道と平均消費金額：「貯金」だけが、消費金額・割合ともに増加 「商品・サービス購入」は金額微増も、割合は微減

今冬のボーナスをどのような目的に使うか、項目別に金額で聞いた。まず毎年割合の高い「貯金」は、今年も74.1%が貯金予定で、その金額は174,826円（昨年比+3,844円）。これに「商品・サービスを購入する」が73.0%と続き、金額は67,125円（昨年比+2,985円）。こちらの一般消費に関しては、金額では昨年よりもややアップしたが、割合はやや減少しており、一概に増加したとは言いがたい。

金額・割合ともに増加しているのは、「貯金」のほかにはなく、残りの項目に関しては割合自体が低下傾向にある。割合が増加したのは、「旅行・外出をする（国内）」の36.2%（+2.2ポイント）と、「金融商品（投資信託、株式等）の補填」の5.2%（+0.1ポイント）くらいなものだが、いずれも消費額は減少。今年の冬も、消費者のお財布の紐はなかなか固そうだ。

【図 6. ボーナス消費平均金額（複数回答）】

ボーナスの消費目的	調査時期	この目的にお金を使う人の平均消費金額(円)	この目的にお金を使う人の割合(%)
ローン返済	2011 年冬	192,594 円	45.5%
	2012 年冬	187,328 円	45.0%
貯金	2011 年冬	170,982 円	73.9%
	2012 年冬	174,826 円	74.1%
旅行・外出をする(海外)	2011 年冬	150,303 円	8.0%
	2012 年冬	142,527 円	8.0%
金融商品（投資信託、株式等）の購入・外貨預金など	2011 年冬	123,781 円	9.8%
	2012 年冬	137,055 円	9.1%
子供の教育費	2011 年冬	129,666 円	34.4%
	2012 年冬	127,171 円	33.1%
金融商品（投資信託、株式等）の補填	2011 年冬	134,247 円	5.1%
	2012 年冬	117,853 円	5.2%
商品・サービスを購入する	2011 年冬	64,140 円	74.2%
	2012 年冬	67,125 円	73.0%
旅行・外出をする(国内)	2011 年冬	55,315 円	34.0%
	2012 年冬	53,319 円	36.2%
その他	2011 年冬	89,208 円	39.6%
	2011 年冬	92,142 円	38.5%

冬のボーナスで購入したいもの：「タブレット端末」(11.8%) が昨年の 13 位 (5.2%) から 2 位に急上昇。調査開始以降、初めてPCを抜く

今冬のボーナスで購入しようと思っている製品やサービスについて聞いた。昨年調査とは上位の顔ぶれがかなり異なっているのが興味深い。

今回注目は、2位の「タブレット端末」(11.8%)。昨冬の調査では5.2%で、今夏のボーナス調査でも6.0%であったことを考えると大幅なアップである。この秋発売されたアップルの「iPad mini」やGoogleの「Nexus 7」など、7インチクラスの手ごろなタブレット端末が増えてきたことが大きく影響しているものと思われる。

また、3位につけた「ホビー・おもちゃ・グッズ・漫画・同人誌」も10.1%と高い割合となった。この項目は今回の調査から新たに加えた項目だが、クリスマスシーズンということもあってか、かなり高めの割合となっている。なお、この中には、ゲーム機やゲームソフトは含まれていない。

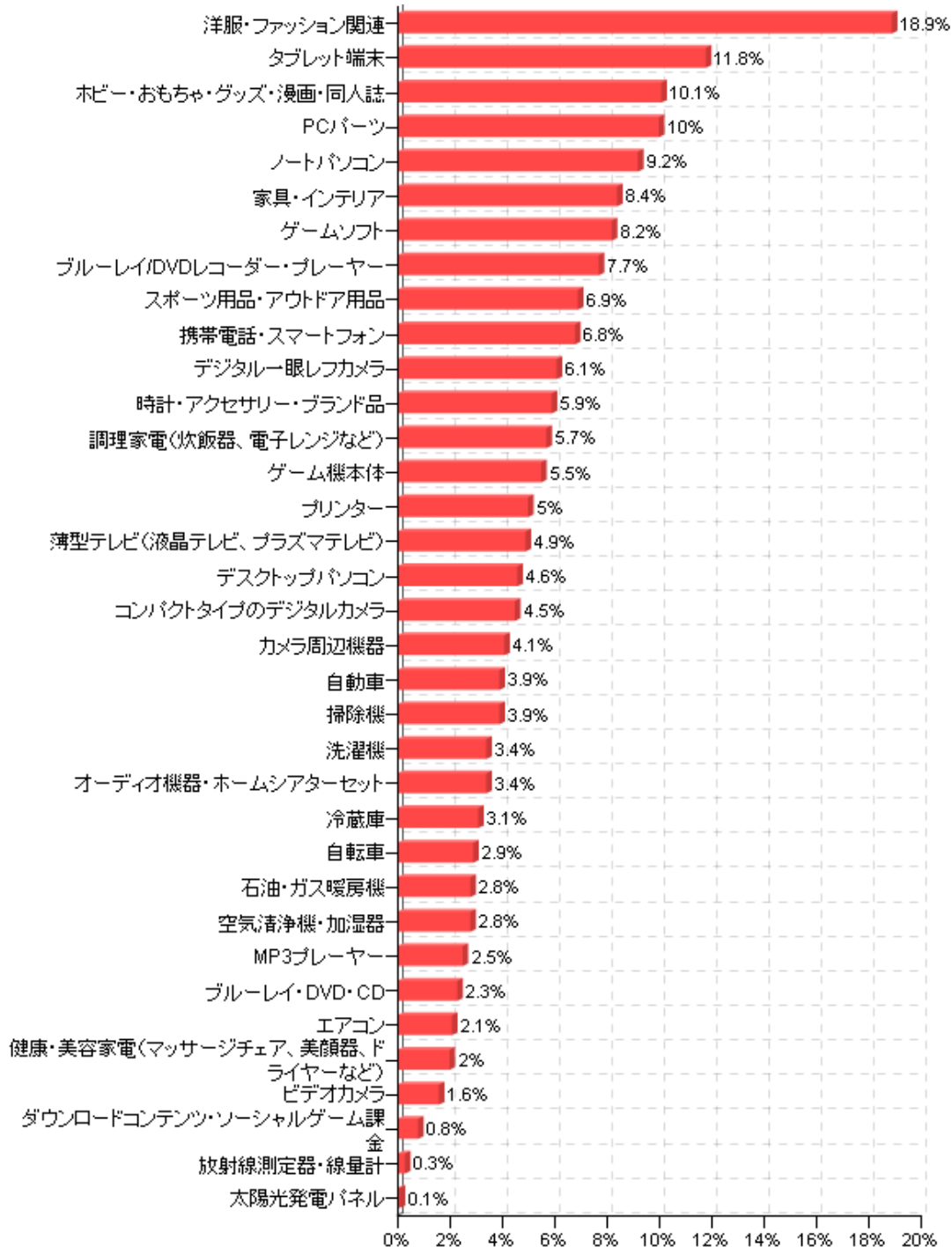
そのほか、昨年調査時よりもポイントを上げたのは、「デジタル一眼レフカメラ」(6.1%、+1.5ポイント)、「時計・アクセサリ・ブランド品」(5.9%、+1.1ポイント)、「自動車」(3.9%、+1.1ポイント)などが主なものとなる。「デジタル一眼レフカメラ」に関しては、2012年は中上級製品がかなり好調だったため、久しぶりに熱いボーナス商戦が迎えられそうだ。また、「自動車」については、いわゆる

「エコカー補助金」の締め切りが近づいていることと、来年以降に予定されている消費税アップの影響による駆け込み需要が底上げ材料となっているといえるだろう。

逆にポイントを下げた項目としては、「PCパーツ」(10.0%、-1.4ポイント)、「家具・インテリア」(8.4%、-2.0ポイント)、「ゲームソフト」(8.2%、-1.4ポイント)、「ブルーレイ・DVDレコーダー・プレーヤー」(7.7%、-4.3ポイント)、「薄型テレビ」(4.9%、-2.0ポイント)などが主なものとなった。特に、これまで家電業界を牽引してきた「薄型テレビ」と「ブルーレイ・DVDレコーダー・プレーヤー」の下げ幅は大きく、家電業界は厳しいボーナス商戦となりそうだ。なお、「スポーツ・アウトドア用品」(6.9%、-1.3ポイント)についてもポイントは下がっているが、今回から「自転車」(2.9%)という項目を加えたため、これについては除外した。

全体的に大きくポイントを上げた項目が少なかった半面、大きくポイントを下げた項目は多く、全体として、「タブレット端末」以外のヒット商品が見つからないという状況といえる。

【図7. 今冬のボーナスで購入する商品（ボーナス支給者全体）】



総評：鎌田剛 カカクコム メディアクリエイティブ部 部長

今年の冬のボーナスの支給予想額は55.0万円で、昨年よりも5,000円ほど上回った。ただ、全体の傾向としては、今年2012年冬のボーナスは、昨年2011年の冬のボーナスの支給状況とほとんど変わっておらず、ほぼ横ばいと言っていいレベルとなった。推定支給額、満足度はともにわずかながらプラスといった状況で、大きな変化は起こっていない。

昨冬のボーナスは、3月に起こった東日本大震災の影響で、経済にも大きな打撃があったことを受けての支給だった。今年は昨年に比べれば平穏ともいえる年だったが、大手家電メーカーなどが大幅な赤字決算となるなど、経済的には厳しいニュースも多かった。そうした情勢を受けて、今冬のボーナス支給も昨冬とほぼ同程度で、やや低調となりそうである。

消費行動も鈍い。昨年調査時に比べて消費割合、額ともに上がっているのは「貯金」くらいのもので、その他の消費に回す割合は全体的に鈍っている。例年、消費割合の高い「商品・サービス購入」に関しても、1人あたりの金額ベースでは3,000円近く増えた67,125円となっているが、その割合はやや減少している。今年の冬も、消費者の財布の紐は固そうだ。

この消費の冷え込みを助長しているのが、ヒット商品の不在だ。一昨年まで家電市場を牽引してきた「薄型テレビ」や「ブルーレイレコーダー」といった製品に対する興味が今冬はかなり低下しており、あまり期待できない状況だ。10月に発売された新OS「Windows 8」に期待をかけていたパソコンに関しても、ほとんど興味が喚起できておらず、今冬のボーナス商戦については、これというヒット商品がなかなかないという状況となっている。

そんな中でほぼ唯一注目されているのが「タブレット端末」だ。「タブレット端末」はこれまでもそこそこの注目度を集めていたが、今冬は2位となり、人気は急上昇している。その背景には、7インチタブレットの登場がある。これまでのタブレットよりも軽くて持ち運びしやすい7インチタブレットは、価格.comでも現在非常に人気を集めているが、この冬はこれを中心にタブレット端末に人気が集まりそうである。このほか、今年が本格派製品の大きな当たり年となった「デジタル一眼レフカメラ」も、徐々に注目度がアップしており、中高級クラスの製品を中心に人気が高まっている。また、「自動車」についても、エコカー補助金の駆け込み需要がある程度期待できそうな状況となっている。

※結果詳細、および過去のリサーチアーカイブは以下URLをご参照ください

<http://kakaku.com/research/backnumber.html>

【調査パネル】

調査エリア：全国 調査対象：価格.comID登録ユーザー

調査方法：価格.comサイトでのWebアンケート調査 回答者数：6,809人

男女比率：男91.0%(平均47.2歳) 女9.0%(平均43.9歳)

雇用形態：正社員：60.7%、契約社員：5.0%、派遣社員：1.3%、パート・アルバイト：5.1%、自営業・個人事業主など：12.1%、学生：1.2%、主婦：2.6%、その他：12.0%

調査期間：2012年11月13日～2011年11月19日

調査実施機関：株式会社カカクコム

※四捨五入による端数処理のため、合計が100%にならないことがあります。

【価格.com サイトデータ】(2012年11月末現在)

月間利用者数3,921万人、月間ページビュー9億9,714万PV、累計クチコミ件数約1,500万件
<利用者内訳>PC：2,933万人 スマートフォン：850万人 フィーチャーフォン：138万人

【報道に関するお問い合わせ先】

株式会社カカクコム 広報室 内山 石橋 甲斐

e-mail: pr@kakaku.com Tel: 03-5725-4554

データの引用・転載時のクレジット表記について

本調査結果の引用・転載の際は、必ずクレジットを明記くださいますようお願い申し上げます。

クレジット表示例

- ・「価格.comリサーチ」調べ
- ・購買支援サイト「価格.com」が実施した調査によると…